



Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press - release

① 3月20日

ITUのグローバルサイバーセキュリティアジェンダはマレーシアの新センターに

ITU's Global Cybersecurity Agenda housed in new centre in Malaysia

サイバージャヤにあるIMPACT本部がネットワークの安全性強化に注力

IMPACT headquarters in Cyberjaya to focus on strengthening network security

(出典：www.itu.int/newsroom/press_releases/2009/08.html)

2009年3月20日、IMPACT (the International Multilateral Partnership Against Cyber Threats) の本部が、本日マレーシアのクアラルンプール近郊にあるサイバージャヤにオープンした。IMPACTは、官民共同でサイバー脅威に立ち向かう世界で初めての組織であり、ITUが進めている情報社会の信頼性や安全性を高めるための世界的な協力体制プログラムであるグローバルセキュリティアジェンダ (GCA) は、このIMPACTの新しい設備を使って運営される。ITUとIMPACTは共同で、191のITU加盟国に対し、世界で最も重大な影響をもたらすサイバー脅威に対しても、効果的な対処が執れるようにするため、専門的知識やリアルタイムでの情報提供を行う。また、サイバーセキュリティ確保に向けた法規制や対処技術の訓練なども行う。GCAの設備は、IMPACT内に置かれるが、ジュネーブのITUでは早期警戒システムやサイバー脅威に対する危機管理、リアルタイム分析などができる「バーチャルショーケース」を設ける予定である。

② 3月27日

温室効果ガス排出報告にICT産業が共通のアプローチを提示
ICT industry offered common approach to reporting greenhouse gas emissions

CO₂排出量計算を促進する標準化された評価手法

Unified methodologies to facilitate meaningful carbon footprint calculations

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2009/09.html)

国際電気通信連合 (ITU) の「ICTと気候変動に関するフォーカスグループ (FG)」の会合 (3月24日～27日) が広島で行われ、ICTの利活用によるCO₂削減効果について標準化された評価手法が提案された。

同FGは、二つの要素 (①ICTライフサイクル (機器の生産・利用・廃棄) から生まれるエネルギー消費とCO₂の環境への影響、②化石燃料を消費する活動 (移動・旅行) を代替するICTや音楽CDをMPファイル化するなどの「非物質化」による温室効果ガスの削減) を計測する手法を開発した。

会合では、更に、気候変動に関する専門用語と概念等についての各種定義の策定、世界各地の多数の機関による取組状況の事例集の作成等について合意した。今後、FGは、ITU-T勧告若しくは標準として成果を出していく予定である。